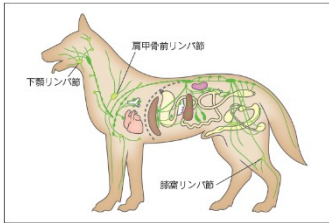
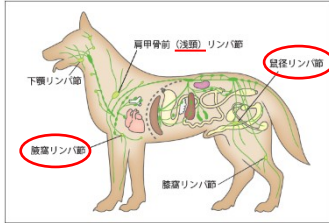



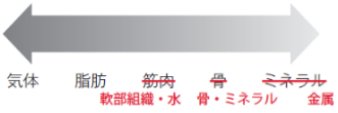
『愛玩動物看護師の教科書 第4巻』(1刷) 訂正とお詫び

ISBN978-4-89531-771-9

下記の箇所に誤りがございました。訂正するとともに深くお詫び申し上げます。

株式会社 緑書房

訂正箇所	誤	正																																
p.6 右段 8 各器官系…8 行目	8. 末梢リンパ節	8. 体表リンパ節																																
p.28 表 1 心拍数	<table border="1"> <tr> <td>心拍数 (回/分)</td> <td>犬 (25 kg 以上)</td> <td>正常値</td> <td>70~100</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>徐脈</td> <td>&lt;70</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>頻脈</td> <td>&gt;160</td> </tr> </table>	心拍数 (回/分)	犬 (25 kg 以上)	正常値	70~100			徐脈	<70			頻脈	>160	<table border="1"> <tr> <td>心拍数 (回/分)</td> <td>犬 (25 kg 以上)</td> <td>正常値</td> <td>70~100</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>徐脈</td> <td>&lt;70</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>頻脈</td> <td>&gt;160 100</td> </tr> </table> <p>・25kg 以上の犬の頻脈 &gt;100 に変更</p>	心拍数 (回/分)	犬 (25 kg 以上)	正常値	70~100			徐脈	<70			頻脈	>160 100								
心拍数 (回/分)	犬 (25 kg 以上)	正常値	70~100																															
		徐脈	<70																															
		頻脈	>160																															
心拍数 (回/分)	犬 (25 kg 以上)	正常値	70~100																															
		徐脈	<70																															
		頻脈	>160 100																															
p.28 表 1 呼吸数	<table border="1"> <tr> <td>呼吸数 (回/分)</td> <td>犬</td> <td>正常値</td> <td>8~20</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>徐呼吸</td> <td>&lt;8</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>頻呼吸</td> <td>&gt;20</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>正常値</td> <td>8~30</td> </tr> </table>	呼吸数 (回/分)	犬	正常値	8~20			徐呼吸	<8			頻呼吸	>20			正常値	8~30	<table border="1"> <tr> <td>呼吸数 (回/分)</td> <td>犬</td> <td>正常値</td> <td>8~20</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>徐呼吸</td> <td>&lt;8</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>頻呼吸</td> <td>&gt;20 (小型犬では &gt;30)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>正常値</td> <td>8~30</td> </tr> </table> <p>・小型犬について注釈を追加</p>	呼吸数 (回/分)	犬	正常値	8~20			徐呼吸	<8			頻呼吸	>20 (小型犬では >30)			正常値	8~30
呼吸数 (回/分)	犬	正常値	8~20																															
		徐呼吸	<8																															
		頻呼吸	>20																															
		正常値	8~30																															
呼吸数 (回/分)	犬	正常値	8~20																															
		徐呼吸	<8																															
		頻呼吸	>20 (小型犬では >30)																															
		正常値	8~30																															
p.28 表 1 血圧	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">血圧 (mmHg)</td> <td>収縮期</td> <td>100~150 (&gt;160 は高血圧)</td> </tr> <tr> <td>拡張期</td> <td>60~110 (&lt;60 は低血圧)</td> </tr> <tr> <td>平均動脈圧</td> <td>80~120</td> </tr> </table>	血圧 (mmHg)	収縮期	100~150 (>160 は高血圧)	拡張期	60~110 (<60 は低血圧)	平均動脈圧	80~120	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">血圧 (mmHg)</td> <td>収縮期</td> <td>100~150 140 (&gt;160 は高血圧)</td> </tr> <tr> <td>拡張期</td> <td>60~110 (&lt;60 は低血圧)</td> </tr> <tr> <td>平均動脈圧</td> <td>80~120</td> </tr> </table> <p>・収縮期の正常値を 100~140 に変更</p>	血圧 (mmHg)	収縮期	100~150 140 (>160 は高血圧)	拡張期	60~110 (<60 は低血圧)	平均動脈圧	80~120																		
血圧 (mmHg)	収縮期		100~150 (>160 は高血圧)																															
	拡張期		60~110 (<60 は低血圧)																															
	平均動脈圧	80~120																																
血圧 (mmHg)	収縮期	100~150 140 (>160 は高血圧)																																
	拡張期	60~110 (<60 は低血圧)																																
	平均動脈圧	80~120																																
p.30 左段 (1)評価 10 行目	30 回/分を超えると	大型犬では 20 回/分、小型犬では 30 回/分を超えると																																
p.32 左段 10. 動脈血…2 行目	酵素とどの程度	酸素とどの程度																																
p.38 図 17		 <p>・肩甲骨前(浅頸)リンパ節に変更 ・腋窩リンパ節, 鼠径リンパ節を追加</p>																																
p.38 図 17 タイトル, p.39 左段 8. 見出し, 8. 末梢リン…1 行目	末梢リンパ節	体表リンパ節																																

訂正箇所	誤	正														
p.39 左段 8. 末梢リン…2 行目	肩甲骨前リンパ節	肩甲骨前(浅頸)リンパ節														
p.114 右段 下から 4 行目	撮影方法は従来のフィルムを用いた方法と同一ですが、撮影部位の厚さが 10cm 以上あってもグリッドは必要ありません(後述)。	撮影方法は従来のフィルムを用いた方法と同一です。														
p.115 左段 (1)X線発生…2 行目	光らない電磁放射線と定義されます。	目に見えない電磁放射線であるといえます。														
p.115 右段 8 行目	増感紙(スクリーン)	フィルム														
p.116 右段 3. 放射線防…3 行目	組織の変化あるいは変質などの悪影響が生じます。真皮, リンパ組織, 造血組織, 白血球生成組織, 乳腺	組織の変化あるいは変性などの悪影響が生じます。真皮, リンパ組織, 造血組織, 乳腺														
p.119 POINT		 <p>・軟部組織・水, 骨・ミネラル, 金属に変更</p>														
p.120 右段 2 行目	撮影の際はフィルムやグリッド, 増感紙は	撮影の際はフィルムや増感紙は														
p.120 右段 (1)撮影準備 下から 4 行目	撮影部の厚さが 10cm を超えるようであればグリッドも準備します(DR の場合は不要)。	撮影部の厚さが 10cm を超えるようであればグリッドも準備します。														
p.121 表 2	<table border="1"> <tr> <td>AP (Anteroposterior) view</td> <td>前後像</td> <td>掌(趾)側</td> </tr> <tr> <td>PA (Posteroanterior) view</td> <td>後前像</td> <td>背側</td> </tr> </table>	AP (Anteroposterior) view	前後像	掌(趾)側	PA (Posteroanterior) view	後前像	背側	<table border="1"> <tr> <td><del>AP (Anteroposterior) view</del></td> <td><del>DP (Dorsopalmar/plantar) view</del></td> <td>背掌(趾)側 前後像</td> <td>掌(趾)側</td> </tr> <tr> <td><del>PA (Posteroanterior) view</del></td> <td>PD (Palmaro/Planto-dorsal)</td> <td>掌(趾)背側 後前像</td> <td>背側</td> </tr> </table> <p>・DP (Dorsopalmar/plantar), 背掌(趾)側, PD (Palmaro/Planto-dorsal), 掌(趾)背側に変更</p>	<del>AP (Anteroposterior) view</del>	<del>DP (Dorsopalmar/plantar) view</del>	背掌(趾)側 前後像	掌(趾)側	<del>PA (Posteroanterior) view</del>	PD (Palmaro/Planto-dorsal)	掌(趾)背側 後前像	背側
AP (Anteroposterior) view	前後像	掌(趾)側														
PA (Posteroanterior) view	後前像	背側														
<del>AP (Anteroposterior) view</del>	<del>DP (Dorsopalmar/plantar) view</del>	背掌(趾)側 前後像	掌(趾)側													
<del>PA (Posteroanterior) view</del>	PD (Palmaro/Planto-dorsal)	掌(趾)背側 後前像	背側													
p.122 図 16 キャプション 7 行目, p.127 図 26 キャプション 3 行目, p.128 図 28 タイトル, キャプション	AP 像(前後像)	DP 像(背掌[趾]側像)														
	PA 像(後前像)	PD 像(掌[趾]背側像)														

訂正箇所	誤	正
p.126 左段 下から2行目	前後/後前 (AP/PA) 像	背掌 (蹠) 側/掌 (蹠) 背側 (DP/PD) 像
p.127 左段 下から1行目	AP/PA 像	DP/PD 像
p.130 右段 4 尿路 1行目 p.131 左段 2 泌尿器…1行目	静脈性尿路造影法	排泄性尿路造影法 (静脈性尿路造影法)
p.130 右段 [静脈性…]1行目	静脈性尿路造影法	排泄性尿路造影法
p.130 右段 [静脈性…]4行目	イオン性ヨード造影剤やメグルミンアトリエートが	非イオン性ヨード造影剤が
p.131 右段 [逆行性…]5行目	空気塞栓	ガス塞栓
p.210 問題 2②	猫で 90~160 回/分である。	猫で 90~160 回/分が正常である。
p.210 問題 2③	8 回/分以下	8 回/分未満
p.214 問題 2②	猫で 150~210 回/分です。	猫で 150~210 回/分が正常です。
p.214 問題 2③	8 回/分以下を徐呼吸, 犬では 20 回/分, 猫では 30 回/分以上で頻呼吸	8 回/分未満を徐呼吸, 大型犬では 20 回/分, 小型犬および猫では 30 回/分を超えると頻呼吸
p.231 図 10 キャプション 6 行目	三角帯	三節帯
p.255 左段 [ナイロン糸]1行目	起こすことはありませんが	起こすことはほとんどありませんが
p.255 右段 4 縫合糸を…4 行目	組織反応の激しい順に, ①天然素材のマルチフィラメント, ②合成マルチフィラメント, ③合成モノフィラメントとなります。	素材による組織反応の激しい順に, ①天然素材のマルチフィラメント, ②合成マルチフィラメント, ③合成モノフィラメントとなります。組織反応が小さい縫合糸であっても, 激しい組織反応を起こすことがあります。
p.255 右段 [重度の…] 1 行目	ポリグリコール酸	ポリジオキサノン

訂正箇所	誤	正
p.454 右段 (1)固定…3行目	水あるいは生理食塩水で希釈して作製します (例: ホルマリン原液 10mL をリン酸バッファーや水 90mL で希釈=10%ホルマリン溶液)。リン酸バッファーを用いたものはリン酸緩衝ホルマリン液 (中性緩衝ホルマリン液) とよばれます。	リン酸バッファーまたは水や生理食塩水で希釈して作製します (例: ホルマリン原液 10mL をリン酸バッファーや水 90mL で希釈=10%ホルマリン溶液)。リン酸バッファーを用いたものはリン酸緩衝ホルマリン液 (中性緩衝ホルマリン液) とよばれます。
p.463 問題 13③	ホルマリン溶液は市販のホルマリン原液をリン酸バッファー (pH6.4) で希釈して作製する。	組織検体は 80%のホルマリン溶液に浸漬して固定する。
p.466 問題 13③	ホルマリン溶液は市販のホルマリン原液 (ホルムアルデヒド 37%) を, 水あるいは生理食塩水で希釈して作製します。ホルマリン原液 15mL の場合, 水 85mL で希釈すると 15%ホルマリン溶液となります。	組織検体は 10~20%のホルマリン溶液に浸漬して固定します。市販のホルマリン原液 (ホルムアルデヒド 37%) 15mL の場合, 85mL のリン酸バッファーや水, 生理食塩水で希釈すると, 15%ホルマリン溶液となります。